

1. 乗合バスの車内での転倒事故により、多くの高齢者が重傷を負っています

平成21年の乗合バスの車内事故による重傷者数：93名

そのうち65歳以上の方が占める割合：82.8%

転倒して重傷を負った高齢者の多くは、手足が不自由になったり、寝たきりの生活になったりしています。

2. バスの走行中に席を立とうとしたり、手すりなどにしっかりとつかまらずに立っていると、転倒の危険性が高まります

バス運転者が気をつけて運転していても、やむを得ず急ブレーキを掛ける場合もあるので、このような場合に対処できるようにする必要があります。

高齢者の方などは、バスに乗車したら、必ず、着席するか、手すりなどにしっかりとつかまって、転倒しないようにしましょう。

周りの人達は、高齢者の方などに席やつかまりやすい場所を譲りましょう。



3. 転倒しないためには、安定した履き物や、手が空くショルダーバッグなどの使用を心掛けることも重要です

バス車内で、しっかりと立てるよう、また、よろけた場合でも立ち直れるような履き物を使用しましょう。

両手に荷物を持っていると、手すりなどにしっかりとつかまることができなくなりますので、荷物はショルダーバッグなどを使用して、手すりなどにしっかりとつかまれるようにしましょう。



発行：国土交通省自動車交通局安全政策課